

イノベーション部門

菌体りん酸肥料『循かん大なごん』

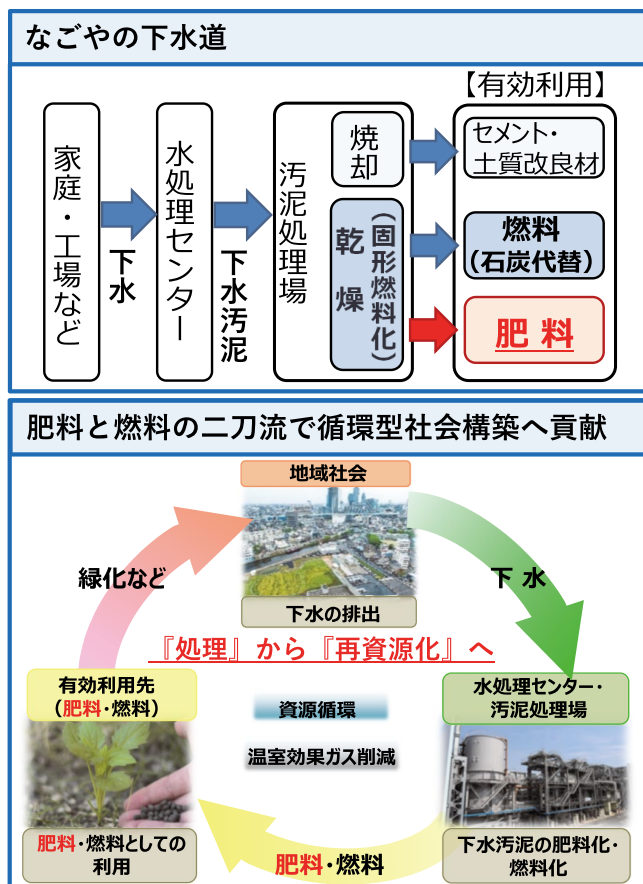
～燃料と肥料の二刀流で循環型社会に貢献～

名古屋市上下水道局

受賞事例の概要

○全国初！下水污泥固形燃料化物の「菌体りん酸肥料」登録

○下水污泥の肥料利用を通じ、循環型社会の構築に貢献



<工夫した点>

- ①既存施設の活用
(施設改造・設備投資等必要なし)
⇒**最小限の経費**で、**最大の効果**を創出
- ②「造粒物」、「菌体りん酸肥料」に着目
⇒利用者が**使いやすい肥料**
- ③肥料利用とともに温室効果ガス削減
⇒**二刀流で課題（温暖化対策、資源利用）解決**
- ④肥料利用の定着に向けたP R
⇒**イメージ戦略**（名称・ロゴ）

肥料名称を『循かん大なごん』と命名し、ロゴマークを作成



- ・下水污泥由来肥料のイメージ戦略を念頭に作成
- ・肥料の効果で種から発芽する様子を表現
- ・各種イベント等でロゴ缶バッジを配布しP R

PRポイント！

厳しい財政状況の中、新たな設備投資をすることなく、**最小限の経費**で下水污泥の**肥料利用を可能**としました。また、従来の燃料利用による温室効果ガス排出量の削減に加え、**肥料としても利用する二刀流**で、**循環型社会の構築と肥料の国産化に貢献**できます。

Key Person



(右) 計画部 担当課長 藤村 達也
(左) 計画部 課長補佐 関口 大輔
(中) 管路部 センター長補佐 西脇 則行

全国初の事例であるため、フロントランナーとしての生みの苦しみがありましたが、粘り強く取組みました。

本取組により、下水污泥を肥料利用するための新たな手法を提示できたのではないのでしょうか。同様の固形燃料化事業を実施する自治体への、波及効果を期待しています。

今後、『循かん大なごん』の有効利用先拡大に向けて取組を継続していきます。